

札幌市水素エネルギー基本方針（素案）に対する ご意見の概要と札幌市の考え方

令和7年（2025年）3月

札幌市

市政等資料番号
02-B08-24-2831

1 意見募集の概要

(1) 趣旨

札幌市では、平成30年（2018年）に策定した「札幌市水素利活用方針」に基づき、水素をエネルギーの1つとして活用する将来の社会構築を目指した取組を進めてきました。

方針の策定から6年が経過し、札幌市を取り巻くエネルギーに関する社会状況が大きく変化していることを踏まえ、「札幌市水素エネルギー基本方針（素案）」を作成し、パブリックコメント手続により意見募集を行いました。

(2) 意見募集期間

令和7年(2025年)1月22日(水)から令和7年(2025年)2月20日(木)まで

(3) 意見提出方法

ホームページ上の意見募集フォーム、郵送、FAX、電子メール、持参

(4) 資料の配布場所

- ・まちづくり政策局政策企画部グリーントランスフォーメーション推進室事務室内
（中央区北1条西3丁目3-1ばらと北一条ビル8階）
- ・市政刊行物コーナー（中央区北1条西2丁目札幌市役所本庁舎2階）
- ・各区役所 総務企画課
- ・各まちづくりセンター
- ・札幌市公式ホームページ

2 パブリックコメントの内訳

(1) 意見提出者数・件数

意見提出者数：4人

件数：7件

(2) 意見提出者の年代別内訳

年代	19才以下	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	不明	合計
提出者数	0	0	0	0	1	2	0	1	4

(3) 意見提出者の提出方法内訳

提出方法	ホームページ	郵送	FAX	電子メール	持参	合計
提出者数	1	1	1	1	0	4

(4) 意見内容の内訳

意見内容	件数
【札幌市水素エネルギー基本方針（素案）全体】	6
【この方針について】	0
【水素の基本情報】	1
【第1章 背景と目的】	0
【第2章 方針の改定に必要な視点】	0

【第3章 まちの将来像と水素エネルギーの活用方針】	0
【第4章 重点的に進める取組】	0
【第5章 取組の推進】	0
【参考資料】	0

3 意見に基づく変更点

方針の記載内容を変更したご意見について、ご意見の概要、札幌市の考え方と変更点をお示しします。

なお、下表には掲載していませんが、札幌市水素利活用方針改定検討委員等からのご意見を踏まえた文言等の変更についても行っています。

意見の概要	札幌市の考え方と変更点
水素の輸送時や保管時の安全性について知らせてほしい。	水素の保安規制について資料編（P36）に追加で記載をいたします。
「水素モデル街区」（札幌市中央区大通東5丁目・6丁目）のような、周囲がマンションと小学校と大規模商業施設に囲まれた、人口密集地での大規模（500N m ³ /h以上）水素ステーションの運用は不安が大きすぎる。 海外での事故事例も踏まえ、水素ステーションの周囲には防護柵や防護ネットを張って歩行者の保護を行うべき。	水素ステーションは高圧ガス保安法や消防法による保安規則に則り、水素の漏洩防止を大前提に、万一漏洩した場合の早期検知、滞留防止、引火防止、火災時の周囲環境への影響軽減策といった安全対策を施した上で整備されています。 運営時においても上記法令等に基づき、有資格者による保安管理や定期点検・検査が求められ、運営事業者により管理運営がなされるものです。 札幌市としては、水素の安全性について、市民の皆様の理解促進に努めてまいります。 なお、水素の保安規制について資料編（P36）に追加で記載をいたします。

4 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

3に掲載した以外にいただいたご意見の概要と札幌市の考え方をお示しします。

これらのご意見については、今後の水素エネルギー関連施策及び取組の検討・実施にあたり参考とさせていただきます。

意見の概要	札幌市の考え方
さっぽろ雪まつりで行った水素関連展示のように、水素エネルギーを使うことによるメリットや目的をわかりやすく説明してほしい。	水素エネルギーに関する理解促進は非常に重要であると考えており、水素エネルギーの有用性を実際に体験できる学びの機会の創出など、水素を身近なものとして理解できる取組を進めてまいります。

水素エネルギーを活用した場合の費用対効果について、各分野で具体的数値を明らかにした上で知らせてほしい。	水素エネルギーの活用については、技術開発・実証段階のものも多くあり、さらなる発展が見込まれています。
ガス改質型ではなく、化石燃料不要の安価な家庭用の燃料電池があれば知らせてほしい。	今後の技術開発等の動向を踏まえ、適宜必要な情報発信に努めてまいります。
方針に記載されている水素エネルギーとは水素エンジンと燃料電池を包括したものをイメージしているようだが、水素普及に向けてのコストがネックとなっている中、水素の大量消費を前提としており、経済的とは言えない。 将来的な水素単価も現状の電気の単価をやや上回ると聞いたことがあり、消費者には受け入れられない。	取組の推進にあたっては、水素価格や技術開発の動向等を踏まえつつ、市民理解の促進に努めてまいります。
水素を燃料とした低温核融合は有用な技術であることから方針の中に位置づけるべき。	ご意見は、今後の取組にあたっての参考とさせていただきます。